

秋冬アルバム ～こんな出来事がありました～



コミュニティコンサートinウエルケア新吉田
今年も横浜市民広間演奏会の皆様が、素敵な演奏会を開催して下さいました。楽しいリズムの楽曲に、懐かしの唱歌 クラシックなど心躍るひと時でした。



恒例となりました、
焼き芋屋さんに来ていただきました。

クリスマス会



デイケアでは12月19日～25日の間に、3階は12月16日にXmas会が開催され、各々フロア職員による音楽や工夫を凝らした催しごと利用者様にプレゼントされました。笑顔溢れるひと時でした。



折り紙 盆栽

日本折紙協会の作品を参考にして、ご利用者様に折り鶴で盆栽を作りました。15cmの折紙を16分の1に切って、1片は約3.5cm。出来上がりの折り鶴は、翼を広げると4cmほどになります。これを、盆栽の写真の色味に合わせて、幾つも折って頂き職員がお手伝いして貼っていきました。紅葉や藤の盆栽が華やかに出来上がりました。

編集後記

謹賀新年

施設生活の一コマが伝えられたらとこの1年記事の編集をして参りました。今年も宜しくお願いします。

広報委員 吉村亜矢子



屋上駐車場から望む富士山

令和7年1月発行

ウエルケア
広報誌

Vol. 68

こころ

【発行者】

医療法人社団 裕正会

介護老人保健施設 ウエルケア新吉田

https://www.welcare.or.jp/ TEL:045-590-3855(9:00~17:30)

1面: ●新年のご挨拶 2面: ●訪問リハビリパート2/言語聴覚士の紹介
3面: ●学びの「感染対策」について/BCP備えあれば憂いなし
4面: ●レクリエーション紹介

巳年

2025年 年頭にあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

昨年4月1日より施設長を拝命しまして、約9カ月経過しましたが、ようやく仕事ができるようになりました。事務長をはじめ、職員一同にご協力感谢您申し上げます。

さて、昨年はドジャーズがワールドシリーズを制覇して、50-50を成し遂げた大谷祥平選手が話題の中心であり、日本人として誇らしいと感じました。しかし、ロシアのウクライナ進行、イスラエルのガザ進行は、まだまだ続いています。今後、世界大戦にならないようにと、強く思います。明るいニュースでは、ノーベル平和賞に日本被爆者団体協議会(被団協)が選ばれ、はなやかな授賞式が行われ、日ごろ忘れがちな原爆反対、核兵器廃絶をまた強く願いました。

私どもウエルケア新吉田では、職員一同 新年度はまた新たに、利用者さま、ご家族さまに満足得られる医療・介護・リハビリテーションを提供して、在宅復帰を目指していきたくと考えています。皆様のご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

施設長 安部良治

あけましておめでとうございます。

旧年中は大変お世話に、スタッフ一同 心より御礼申し上げます。

本年度もご利用者の皆様に安心してご利用いただけますよう努めて参りますので、ご指導ご鞭撻のほど どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様のご健康とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年も宜しくお願い申し上げます。

通所リハビリテーション 橋本直也

年末、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ感染症等が流行し、今後も感染対策を万全に対応を続けていく必要があると思いますが、ご利用者様の体調や感染症の流行の様子を考慮しながら、面会やレクリエーション等の制限を緩和し少しでもご利用者様が楽しく過ごしていただきたいと考えています。

今年もご利用者様には季節を感じていただく花々を楽しんでいただけるように、昨年に引き続き新棟の屋上ガーデニングに取り組んでいきたいと思ひます。

入居者様やご家族様の笑顔が多くなる一年になりますように心より願っております。

看護係長 佐々木 美幸



訪問リハビリ

part 2

あるご利用者さまとの思い出



あるご利用者さまとの思い出です。

Kさんは通所リハビリでは、平行棒をお一人で歩くことができました。ご自宅においても、訪問リハビリの時のみ歩行を行っていました。ご自宅でのサービス担当者会議のあり、Kさんは「皆さんのおかげで、どうにか半人前でいられます。これからも助けてください」と言われ、この言葉に大変ショックを受けました。ご自身のことを“半人前”と自称し、望んでいたことを全く語れず、そう言わざるを得なかったからです。

以降、私はKさんと一緒に、家の内外を許す限り歩き回りました。主体的に移動探索する能力を再獲得する（詳細は次回に述べます）と、ご家族発信で“トイレに挑戦しよう”という話になり、生活に定着出来ました。家の中でも、眺める景色が変わると語りが豊かになり、驚きの展開が待っていました。ちよっぴり自信が芽生えたKさんは、ある時に「2階の筆筒が見たい」と言いました。理由を尋ねると「へそくりがあるはずなんだ。おかあはん（妻）より先に見つきたい」と答えられました。その後の展開は中略させて頂きますが、へそくりに関してご家族が円満に回収されKさんに渡されました。機能訓練を続け、Kさんと私は電動車いすで近隣の商業施設に向かい、妻の誕生日に花籠とたこ焼きをプレゼント。Kさんの意思で、へそくりは活かされました。



Kさんとはそれから約2年間、ご家族と一緒に看取りまで関わらせて頂きました。Kさんらしさは果たして数%も発揮できなかったかもしれませんが、別れ際「いい人生をありがとう」と奥様に語られたそうです。

リハビリテーション科 理学療法士 千葉 桂

ウェルケアには言語聴覚士が2人在籍しています。

○言語聴覚士（ST）は、「食べる」と「話す」を専門としたリハビリ職です！

昨今、高齢化社会となり受容は多くなっていますが有資格者がまだまだ少ない職種です！

言語障害

- 言いたい言葉が出てこなくなった
- 相手の話が理解できなくなった
- 文字が書けない、読めなくなった
- 計算ができなくなった
- 言葉が不明瞭になった
- 呂律が回らなくなった
- 口が動きづらくなった

こんな時は

高次脳機能障害

- 注意が散漫で集中できなくなった
- 判断力が低下した
- 物忘れが多くなった
- 物事を覚えていられなくなった
- すぐ怒ってしまうようになった
- 活気がなくなり自分から行動しなくなった
- 左側に注意が向かなくなった



ST

言語聴覚士です！

摂食嚥下障害

- よくむせるようになった
- よく痰が絡むようになった
- 食後に声が変わる
- 水分・食事量が減った
- よく熱が出る

- 固いものが食べられない
- 流涎がある
- 食べている時によく鼻水が出る
- 食事に時間がかかるようになった



* お困りの方はご相談ください！！

学びの窓～感染症対策

忘れていませんか？ 覚えていますか？

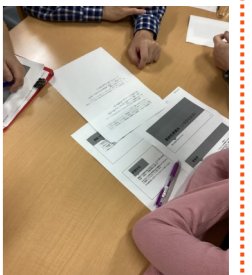
毎年2回開催



集団生活という環境は、ひとたびインフルエンザ、新型コロナウイルスといった感染症が発生すると広がり易く、若い人よりも免疫力の低下している高齢者は感染症にかかりやすい環境と言えます。だからこそ施設では、感染対策が重要になります。勉強会では感染対策のDVDを活用した座学と実技による嘔吐物の処理の仕方を学び、日々の業務に生かしています。

今回は上記に記した学習以外に感染対策についてのグループワークを行い、感染についての意見交換を介護士・看護師・リハビリ職員・相談員が行い、様々な気づきがありました。

研修委員会 今井 広幸



備えあれば、憂いなし。炊き出しシュミレーション

介護におけるBCPとは

地震などの自然災害、感染症拡大テロなどの緊急事態において必要な介護サービスを提供し続けるために、事業継続や迅速な復旧を目的に策定される計画のことです。

当施設においても、自然災害、感染症と2つのプロジェクトを立ち上げ、それぞれにBCPの策定に取り組んできました。



湯煎したおにぎり



豚汁

活動の一環として今年度は炊き出しの訓練を行いました。入所者想定150名分の食事の用意をどの程度の人員と、時間で用意する事が可能かを検証する目的です。災害に備え備蓄食料も常備は行っておりますが、ライフラインの復旧が東日本の震災時には1週間程度要したケースもあったようです。今後もあらゆる不測の事態を想定しながら訓練やBCPの見直しを行い不測の事態にも備えて参ります。

療養棟にて介護係長をしております、仲道と申します。今後ともよろしくお願い致します。昨年はウェルケアとしてコロナでの閉鎖的な空間からご家族様、地域の方々との交流の再開を目標に取り組んで参りました。感染症の流行も経験し、試行錯誤する事も多くありましたが、面会の再開や外部の方を招いてのイベント等も行いう事ができ、コロナ禍前の日常が戻って来たと感じる場面もありました。今後も入所されている利用者様の安全を守りながら、外部との交流や楽しみの提供にも注力して参ります。また、面会を通してご家族様にも施設での普段の様子をお伝え出来る様に取り組んで参ります。施設にお越しの際にはお気軽にスタッフにお声掛け下さい。

介護係長・BCP委員会 仲道 隼人